気仙沼－南三陸－鮎川－秋保

おかみさん新春トーク⑩

―皆さんから今年の抱負をお聞きします。

鈴木　大谷地域の若手有志を中心に組織した「里海（まち）づくり検討委員会」に参加させていただいています。

大谷海岸の復興は当初、海抜9・8㍍の防潮堤を作り、砂浜が全てなくなるという県の構想でした。

しかし、国道45号をかさ上げして堤防機能を備え合わせるという新たな構想で国、県、市と協議を重ね、砂浜が残ることになりました。

今年からその防潮堤工事が始まります。2年以上にわたる協議を経て、海水浴場という観光面にも配慮した防潮堤となる予定です。

完成は3年後。それまでに地域とともに魅力ある場所となるよう、できることから一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。

阿部　自助、共助、公助が大切と東日本大震災後に言われるようになりました。

特に重要なことは「自助」「共助」だと思います。

チリ地震津波の教訓を子や孫に語り継いでいた家庭は、この大震災で判断や避難行動がしっかりでき、「親の教え」の大切さがよく分かりました。

実家は気仙沼市内の脇で、父は後付け工事で屋上のある家に「らせん階段」を設置し、あの日20人の命が守られました。

千年に1度の災害は千年に1度の学びの場として伝承活動に力を入れ、三陸道の延伸で地域が空洞化しないよう、震災遺構のルート作りなど、気仙沼、南三陸の連携を深めていければと思います。

観光業は裾野が広い産業ですから、美しい景観、豊かな海の幸を積極的にPRして三陸に多くの方々を迎え、交流人口を増やし、地域活性化に励んでまいります。

遠藤　3月には東日本大震災から7年になります。牡鹿半島の復興は道半ばですが、当ホテルは4月にリニューアルオープンの予定ですので、震災時の様子を風化させぬよう、語り部やDVDなどで伝えながら、新たな施設で新たな牡鹿の魅力を探りながら、観光を展開していきたいと思います。

半島周辺には日本三大霊場の金華山、県内一きれいな白浜ビーチのある網地島、猫のいる田代島、国の天然記念物ウミネコがいる足島など、たくさんの島があります。

船でクルーズして複数の島を楽しめるような周遊型の観光、漁業体験、トレッキングを取り入れ、従来のグラウンドゴルフの利用とともに、取り組んで行きたいと思います。

―最後に高橋さん、お願いします。

高橋　2018年の幕開けは秋保を煌々（こうこう）と照らす初日の出でした。穏やかな元日の朝に真っ赤な日の出から今年1年のパワーをもらえた気がします。

緑水亭は今年50周年を迎えます。昨年と全て同じではなく、変化と前進の年にしたい！「おかげさまで50年」という感謝の気持ちでお客さまをお迎えし、日頃のご恩返しができる年にしたいと思っております。

これまで緑水亭のファンを増やすことを大切にしてきました。そのためには小さなことから大きなことまで、心を込めなくてはなりません。「心のある宿」を感じていただきたいのです。

お客さまから選ばれる旅館、お迎えする私たちも輝ける旅館を目指し今年も明るく元気にまいりたいと思います。

―長時間にわたりありがとうございました。**終わり**

◆出席者◆

鈴木　緑さん（はまなす海洋館）
阿部　憲子さん（南三陸ホテル観洋）
遠藤　和子さん（ホテルニューさか井）
高橋　知子さん（篝火（かがりび）の湯緑水亭）

三陸新報社編集局次長　玉谷誠一

2018年1月16日（火）【三陸新報】